

視察報告書

令和 4 年 1 0 月 2 6 日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会

(代表) 議員 大月 悦子



政務活動費により行政視察を実施しましたので、次のとおり報告します。

記

- 1 視察期間 令和 4 年 1 0 月 1 9 日 (水) から 令和 4 年 1 0 月 2 1 日 (金) まで
- 2 視 察 先 (1) 長野県長野市 1 0 月 1 9 日 (水) 13 : 00 ~ 16 : 50
(2) 長野県長野市 1 0 月 2 0 日 (木) 9 : 00 ~ 11 : 30
(3) 長野県長野市 同日 11 : 30 ~ 16 : 30
活用する文化財「真田十万石」城下町・松代地区視察
- 3 視察議員名
丸田克孝 大月悦子
- 4 面 会 者 (1) 第 1 7 回全国議会議長会研究フォーラム 参加者 約 2300 人
(2) 第 1 7 回全国議会議長会研究フォーラム 参加者 約 2300 人
(3) 活用する文化財「真田十万石」城下町・松代地区 約 7 0 人
- 5 視察目的 (1) 第 1 7 回全国議会議長会研究フォーラム 1 日目
(2) 第 1 7 回全国議会議長会研究フォーラム 2 日目
(3) 活用する文化財「真田十万石」城下町・松代地区視察
- 6 視察の経過及び感想
別紙 会派くらよし「行政視察報告書」参照
- 7 添付書類
(1) 視察先提供資料

要した経費： 2 人合計 98,930 × 2 = 197,860 円

会派 くらし 「行政視察報告書」

日時 令和4年10月19日(水)～21日(金)

議員 丸田 克孝 大月 悦子

Ⅰ. 視察・調査の経過及び感想について

(1) 「第17回全国市議会議長会研究フォーラム」10月19日(水)13:00～16:50
長野市 のホクト文化ホールにて3年ぶりに人を入れた従来の形式で開催されました。

開会式行事 主催者挨拶(全国市議会議長会会長・横浜市議会議長 清水富雄)

主催者挨拶 (長野市長荻原健司)

第Ⅰ部 基調講演 「コロナ後の地域経済」と題して富山和彦さんの講演

講師:(株)経営共創基盤(IGPI)グループ会長

(株)日本共創プラットフォーム(JPiX)代表取締役社長

基調講演の主旨は次のとおりである。

デジタル革命による事業展開、新しい地域交通の在り方などについて講演でした。

デジタル革命の拡大:AI新時代(第4次産業革命)の到来。グローバル競争の中で日本経済・企業の地位が低下、日本経済復興は、ローカル経済圏・中堅・中小企業経済圏こそが日本経済の主流!労働生産性の低さ、マネジメントレベルの低さこそが成長の機会!等をあげ、ローカル産業の生産性、収益性を抜本的に改善していくことが重要と強調しました。

(株)経営共創基盤は地域公共交通の維持存続に向け地方の路線バス事業の統合・再編に取り組んでおり、東北の「みちのりホールディングス」で知られています。松本市の電鉄・バスの公設民営化の検討にも経営共創基盤が参画しています。みちのりホールディングスの取り組みなどから「地道な改善改良の徹底の先にDX的解決が自然に浮かび上がってくる、再編によるベストプラクティス(最も効果的な方法)の横展開やスケールメリットの追求で、単独ではなしえない改善効果を生み出すことができる」とし、民営バスの将来性を強調。具体的には、利便性と収益性をともに高めるためにICカードの導入、ドライブレコーダーによる事故分析、バスロケーションシステム、AIを活用したダイナミックルーティング(路線バスのデマンド化)、貨客混載、自動運転への備え、顔認証おもてなしサービスの事業化が問われるとしました。

《感想》特に交通に関しては、思い切った改革をしなければ今の状況は変わらないなど、将来を見据えて、価値を変えることの大切を学びなかなか刺激的なお話でした。

第2部 パネルディスカッション「地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性」

コーディネーター：人羅 格（毎日新聞社論説委員）

パネリスト：岩崎尚子（早稲田大学電子政府・自治体研究所教授）

牧原 出（東京大学先端科学技術研究センター教授）

湯浅壘道（明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授）

寺沢さゆり（長野市議会議長）

コーディネーター：から現状の報告（令和3年市議会の活動に関する実態調査結果）

- ① 委員会等のオンライン開催（開催した17.4％・開催していない82.6％）

開催に係る規則・条例の改正は（行った9.4％・いない90.6％）

- ② タブレット端末の普及状況（導入している51.9％・していない48.1％）

本会議場での使用状況（全員持ち込み原則40.5％・希望する議員のみ可48.0％・使用した事例なし41.5％）

- ③ 会議録のIC化 インターネットによる検索システム（導入している86.1％・いない13.9％）会議録作成における音声認識システム（している23.9％・いない70.9％・その他5.2％）

パネリスト主な発言

岩崎氏：やって何になるかでなく、やってみたらどう？デジタル化を推進するための提言

- ・非接触型社会への対応—有事と平時における議会の役割を明確にしておく
- ・新デジタル人材の育成—リスキング、技術導入、誰も取り残さない共生社会
- ・指導的地位を占める女性役割を増やすポジティブアクションを実現するためデジタル化の促進と国連SDGsの実践へ
- ・最適なテレワーク—BCP、介護、育児等への多様で柔軟な選択肢こそ、少子・高齢・人口減少社会の解決モデル
- ・新デジタル化社会の形成に強力な政治リーダーシップで、地方の経済格差、並びに情報格差の解消を優先

牧原氏：審議のオンライン化とデジタル化への対応 オンライン議会の開催要件

- ・練習を続ける、マニュアル作成：面倒くさがらない
- ・通信環境の安定性
- ・セキュリティの確保
- ・市民への開放、わかりやすい配信
- ・議長の議事進行能力：オンライン参加者と議場参加者とを同時に扱いつつ審議を進める
- ・他の地方議会と共有していくこと

※市民からのアクセスが容易なデジタル化は不可欠

湯浅氏：議会のデジタル化

- ・デジタル化の誤解
- ・デジタル化の背景 新型コロナウイルス感染症拡大による気づき、社会全体のデジタルとトランスフォーメーションと地方行政のデジタル化、すべての人を対象

とした「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会」の実現、住民のための事務の効率化と高度化

※住民との再構築 デジタル化はツールである

寺沢氏：長野市議会の状況～デジタル化への取り組み～

最初議長としての3点述べられました、①女性議員、議員のなりて不足のため、いろんな人材に関心を持ってもらう。②先進地と情報共有③ハイブリッドでの意見交換を挙げられました

タブレット端末の導入、オンライン委員会を可能とする条例改正、模擬オンライン委員会の施行、また、今年初めて市民と議会の意見交換会をリアル参加とオンライン参加のハイブリッドで開催するなどの取り組みについての報告

《感想》

議会のデジタル化の目的は、あらゆる災害時にも議会機能を十分に発揮し、住民とのコミュニケーション、対話を広げる事を確保することにあること、またオンラインによる議会運営で議員のなりての幅を広げる事につながる事、デジタル化に詳しい人材の育成も必要など改めに課題を痛感致しました

次期開催地挨拶 令和5年は10月25(水)・26日(木)の日程 北九州市で開催

(2)「第17回全国市議会議長会研究フォーラム」10月20日(木)9:00~11:00

第3部 課題討議 「地方議会のデジタル化の取組報告」

コーディネーター：谷口尚子（慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授）

事例報告者：金澤克仁（取手市議会議長）

板津博之（可児市議会議長）

林 晴信（西脇市議会議長）

金澤氏：ICT活用 いつでも・どこでも・議会の権能を維持向上

人口約10万人、24議員定数 議会改革度ランキング2年連続1位 コロナ禍でICT活用で機能を維持 50を超える正式なオンライン会議実施 現地視察をオンラインで(体育館の歪み) 360度カメラ導入
取手市議会のデジタル化においてはトップランナーであり、デモテックの取組みも素晴らしいと感じました。

最後に国への意見書「オンライン本会議の実現に必要な地方自治法改正を求める意見書」を各市で提出を求められました。

板津氏：可児市議会の取組について

6000品種2万本のバラローズガーデン、議場にバラを！市政執行40周年
人口10万人外国人7、5%多文化共生

- ・議会基本条例に基づき、平成24年から春秋に議会報告会実施している。
以前は対面式（対立）であったが、現在は対話式で実施
- ・議会グループウェアの導入（2019年4月～）
委員会資料を委員以外にも配信、グループでの意見交換が可能に、様式のダウンロードも可

林氏：議会DXへの取組 議会は住民自治のプラットフォーム！を目指してICTを何のために使う？

現在の議員16人中新人7人 議会改革は議会運営委員会で所管

- ・決算審査だけでは政策議会にならない 予算で決算審査を意識 そして、市民の意見をどう導入するか検討し、予算公聴会実施、また高校の授業で議会報告会19時間

※従前は議会のICT化がもてはやされる。タブレットの導入＝議会のICT化＝ペーパーレス

え？それだけ ICTの導入により、人々の生活をより良いものへと変革できましたか？議案の審査等が充実しましたか？

自治体DX＝デジタルによる議会の効率化、より多くの多様化した民意の集約化で「人々の生活をより良いものへと改革＝住民の福祉の増進

《感想》

林議長のパワフルなお話に頷くことが多くありました。「習うより慣れろ」

何のためのデジタル化、どの議長も住民を見据えてのものでした。

当たり前の事かもしれませんが「何のために」を考えて議論しなければならない事痛切に感じました。

第4部 視察 4つのコースからBコース

活用する文化財「真田十万石」城下町・松代地区 を選び視察

長野市松代町は、戦国時代から活躍した真田家が、江戸時代初めに上田地域からこの地に移された後、明治時代に入るまでの250年間、松代藩十万石の城下町として発展したところです。真田家の居城であった松代城跡、伝来した大名道具を収蔵・展示する真田宝物館をはじめ、江戸時代を中心とした建物のたたとした建物のたたずまいがそのまま残る、歴史的・文化的な町並みを見学。学芸員による解説。当時の復元の途中でもありました。城下町として観光客も多いと聞きました。管理も行き届き、事業主体は市になっており管理も行き届いていました。

2. 視察・調査を終えて

コロナ禍で県外研修は2年目となり、緊張した視察でした。会場は2千人を超える各地から議員が集まりました。

名簿の中で鳥取県からの参加者は倉吉市の4名でした。

倉吉市は今議会基本条例の素案の策定が終わったばかり、今後議会のデジタル化の在り方について考える良い機会となりました。

特に新型コロナウイルス感染症拡大、あらゆる災害に於いて平時・災害時にかかわらず議会機能を十分に発揮し、市民との対話・コミュニケーションを大切にするには改めてデジタル化を進めていくことが必要だと思いました。

市民の笑顔と幸せのため議会、議員活動へ生かすことの大切さを再認識することができました。視察を通して学んだことを倉吉市にそして、市民の皆様のために一層努力してまいります。ありがとうございました。

会派 くらよし 行政視察写真（R4年10月19日～20日）



会 場



オープニング



会長挨拶



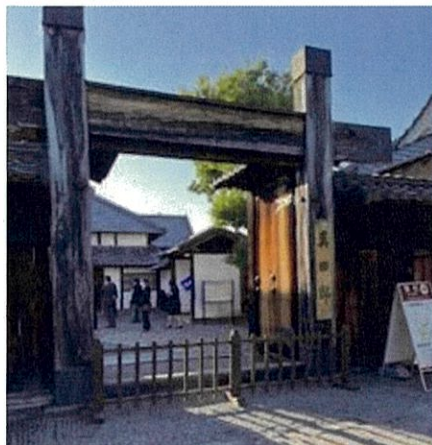
荻原市長挨拶



基調講演



パネルディスカッション



視察 真田館



課題討議